

令和5年3月

栄養学若手研究者の集い会報

第58号

目 次

巻頭のことば.....	2
令和 3~4 年度 栄養学若手研究者の集い 世話人一覧.....	3
特集 現世話人の紹介.....	4
栄養学若手研究者の集い 会則.....	20
令和 4 年度総会・講演会 報告.....	22
第 55 回サマーセミナー 報告.....	23
資料	
サマーセミナー代表挨拶	
感想文	
第 55 回サマーセミナー アンケート集計結果.....	35
第 56 回サマーセミナー 案内.....	40

会報 58 号の発行にあたって

平素より、栄養学若手研究者の集いの運営にご理解ご協力賜りましてありがとうございます。世話人代表を仰せつかっております東京農業大学の井上博文と申します。会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。本会は、栄養学を中心とした教育者・研究者・現場の先生方とが横断的につながり発展していくことを最大の目的としております。この栄養学の未来に資するため、会員間の親睦に重きを置き、総会およびサマーセミナーといった形で年 2 回の意見交流会を行うことで、基礎栄養学研究者と実践栄養学研究者の連係・親睦を図っております。

本年もコロナ禍で思うような活動ができない中、総会およびサマーセミナーを対面にて開催致しました。過去よりも今よりも未来を見据えて、新たな会の楽しい運営を行うなど、少しずつですが改革を進めております。もっと本会がよくなるよう会員の皆様の率直なご意見いただきたく存じます。どうぞ、宜しく願い申し上げます。

本号の特集として、世話人の自己紹介をお届けします！他にも総会・第 55 回サマーセミナー(徳島県徳島市)を含む令和 4 年度の活動報告をお届けいたします。さらにサマーセミナーでご講演くださいました先生方から、振り返りができるよう情報提供をいただきました。

また令和 5 年度の活動予定として、第 77 回日本栄養・食糧学会大会(札幌)会期中であります 2023 年 5 月 13 日(土)18 時(予定)より総会および基調講演を開催致します。基調講演には、元女子アイスホッケー日本代表で、現在、母校であります北海道文教大学で教鞭をとられている米山 知奈 先生より、【女子アイスホッケー界を取り巻く食環境】をご講演頂きます。また、令和 5 年度第 56 回サマーセミナーは、山下先生(神戸大学)と大塚先生(近畿大学)を中心に開催予定です。詳細は決定次第、HP とメールにてお知らせいたします。

また、会員の皆様にご案内があります。本号より、会報誌のお届けから PDF で本会 HP に掲載することになりました。もちろん、会員の皆様には収支決算など PDF では見ることのできない情報は別途ご案内いたします。今後も会費に見合うコンテンツを作成していきたく存じます。ご理解賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

本会では、今後も総会・サマーセミナー・会報・ホームページ・メーリングリストなどの活動を通して有益な情報を会員皆様へご提供したいと考えております。会員皆様から発信したい情報・内容がございましたら是非、ご連絡下さい。また、本会の活動についてご意見等がございましたら、お気軽にご連絡下さい(wakateeiyo.info@gmail.com)。末筆となりましたが、会員の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

栄養学若手研究者の集い 世話人代表
井上 博文(東京農業大学)

令和3・4年度 栄養学若手研究者の集い 世話人

代表	井上 博文	東京農業大学
副代表	増田 真志	徳島大学
	君羅 好史	城西大学
	金高 有里	札幌保健医療大学
事務局長	鈴木 拓史	同志社女子大学
総務	鈴木 司	東京農業大学
	松本 雄宇	駒沢女子大学
書記	荒井 玲子	茨城リハビリテーション病院
	高橋 文太	厚生労働省医薬生活衛生局食品基準審査課新開発食品保健対策室
	長岡 純子	仁愛大学
広報	大塚 愛理	近畿大学
	山下 陽子	神戸大学
	藤井 駿吾	北海道文教大学
	石井 愛子	西南女学院大学
	青木 海	筑波大学
	吉岡 泰淳	静岡県立大学
会報	串田 修	静岡県立大学
	中谷 祥恵	城西大学
	大南 博和	徳島大学
	矢島 克彦	城西大学
監査	小林 謙一	ノートルダム清心女子大学

特集 現世話人の紹介

【氏名】 井上 博文 (代表)

【所属】 東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 生理機能学研究室

【略歴】

2005年3月 東京農業大学 応用生物科学部 生物応用科学科 卒業
2007年3月 東京農業大学大学院 農学研究科 農芸化学専攻 修士課程 修了
2010年3月 東京農業大学大学院 農学研究科 農芸化学専攻 博士課程 修了
2010年4月 京都大学大学院 農学研究科 食品生物科学専攻 生物有機化学分野 ポスドク
2011年4月 熊本大学大学院 生命科学研究部 微生物学分野 ポスドク
2012年4月 東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科 助手
2014年4月 東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 助教
2021年4月 東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 准教授

【所属学会】 日本栄養・食糧学会(参与)、日本農芸化学会、日本フードファクター学会(評議員)、日本臨床栄養協会、日本微量栄養素学会、日本食生活学会(評議員)、日本食品保蔵科学会他

【研究・仕事内容および共同研究可能な内容】

抗加齢研究やミネラル研究をすすめています。気軽にご相談ください。共同および受託研究は積極的に行わせていただきます。

【若手の会に入ってよかったこと】

一番は大学や企業を超えた友人が多数できることです。大学院生時代から本会に参加していますが、宿泊型サマーセミナーでは同世代が多いことから人生相談したりして背中を押してもらいました！いまの自分があるのは若手の会があったから？かもしれません！

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

昔からバカ騒ぎすることが、とっても大好きです(笑)。最近は子供ができた手前、おとなしくしてありますが、はめ外すと、、、というくらいバカ騒ぎにハマっています！

【その他】 私の所属する研究室 HP です！よろしければ、ご覧ください！

[東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 生理機能学研究室 \(university.jp\)](http://university.jp)

【氏名】 増田 真志 (副代表)

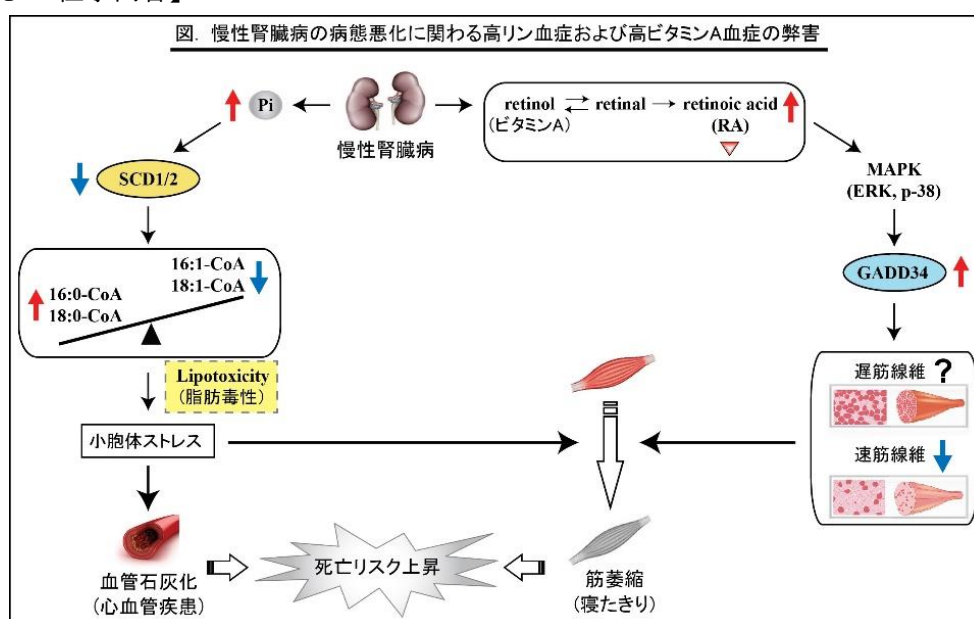
【所属】 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 臨床食管理学分野

【略歴】

2006年3月 徳島大学医学部栄養学科 卒業
2008年3月 徳島大学大学院栄養生命科学教育部 人間栄養科学専攻 修士課程 修了
2011年3月 徳島大学大学院栄養生命科学教育部 人間栄養科学専攻 博士課程 修了
2011年4月 米国コロラド大学医学部 博士研究員
2015年3月 徳島大学大学院医歯薬学研究部 助教
2022年4月 徳島大学大学院医歯薬学研究部 講師

【所属学会】 日本栄養・食糧学会、日本ビタミン学会、日本病態栄養学会

【研究・仕事内容】



【若手の会に入ってからよかったこと】
同世代の知り合いが増えたこと。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

★学生時代にハマっていたこと・・・野球、ハーフマラソン、駅伝、阿波踊り、カラオケ、週刊少年ジャンプ、週刊少年マガジン、週刊少年サンデー、週刊少年チャンピオン、週刊ヤングジャンプ、ビール (PREMIUM MALT'S)、再試、きむ
★現在ハマっていること・・・ソフトボール、懸垂、腹筋ローラー、バランスボード、研究、週刊少年ジャンプ、週刊少年マガジン、ビール (Premium YEBISU、SPRING VALLEY-豊潤)

【若手の会略歴】

第49回サマーセミナー@静岡 (2015年)・・・初参加 (皆さんのヤル気に衝撃！)
第51回サマーセミナー@山形 (2017年)・・・2回目 (指導学生と少し仲良くなれた気がする)
第53回サマーセミナー@静岡 (2019年)・・・3回目 (即席カラオケ大会が面白かった)
第54回サマーセミナー@ウェブ (2021年)・・・4回目 (学生時代の同期に再会)
第55回サマーセミナー@徳島 (2022年)・・・5回目 (サマー代表を経験)

【氏名】 君羅 好史 (副代表)

【所属】 城西大学 薬学部 医療栄養学科 食品機能学研究室

【略歴】

2007年3月 東海大学 体育学部 社会体育学科 卒業

2009年3月 東京農業大学大学院 農学研究科 食品栄養学専攻 修士課程 修了

2012年3月 東京農業大学大学院 農学研究科 食品栄養学専攻 博士課程 修了

2012年4月 城西大学薬学部医療栄養学科 助手

2018年4月 城西大学薬学部医療栄養学科 助教

【所属学会】 日本栄養・食糧学会、骨代謝学会、日本栄養改善学会、日本農芸化学会、日本フードファクター学会、他

【研究・仕事内容】

コラーゲン由来ペプチドが細胞機能に与える影響について研究しています。研究室での仕事以外だと、地域特産品の有効活用商品の開発もしています。

【若手の会に入ってよかったこと】

専門分野に閉じない交友関係ができたことです。あとこれは世話人をやっていて感じるのですが、若いうちから研究会の運営に携わることでマネジメント能力が向上した、気がします！

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

子どもの成長過程の観察から「学ぶ」ということについて知ることがたくさんあって楽しいです。

【その他】 城西大学薬学部医療栄養学科のインスタ見てください！

<https://www.instagram.com/iryoueiyou/>

【氏名】 金高 有里 (副代表)

【所属】 札幌保健医療大学 保健医療学部 栄養学科

【略歴】

2004年3月 共立女子大学 家政学部 食物栄養学科管理栄養士専攻 卒業(家政学学士)
2004年4月 昭和大学 医学部 第一解剖学教室 普通研究生(平成27年3月31日まで)
2006年3月 共立女子大学大学院 家政学研究科博士前期課程修了 家政学修士
2010年6月 共立女子大学大学院 家政学研究科学術博士(乙第22号)授与
2006年4月 共立女子大学 家政学部 食物栄養学科 助手
2009年9月 酪農学園大学 酪農学部食品科学科 専任講師
2014年4月 十文字学園女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 専任講師
2018年4月 十文字学園女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 准教授
2021年4月 札幌保健医療大学 保健医療学部 栄養学科 准教授
2022年9月 札幌保健医療大学大学院 保健医療学研究科 准教授

【所属学会】 日本栄養士会、日本栄養・食糧学会(参与)、日本栄養改善学会(評議員)、日本DOHaD学会(幹事)、日本分子栄養学研究会(評議員)、栄養学若手研究者の集い(副代表)、日本食物繊維学会、日本調理科学会、日本災害医療学会、日本災害食学会

【研究・仕事内容】

研究活動で中心的に行なっているものは、「DOHaD学説に基づく妊娠期の栄養環境(特に葉酸・難消化性糖質、野菜・果物の摂取)が子どもの疾患リスクに及ぼす影響」や、「離乳食に関する研究(出汁、粥中のレジスタントスターチ)」や、防災士やJDA-DATとして「ステージ別における災害食の活用(特に妊娠期・離乳食・アレルギー等)について」などに取り組んでいます。研究活動で分かったことをできるだけわかりやすく一般の方々に伝えるための活動も行なっています。例えば、「食を育むまんなカルタ(群羊社)」を出版したり、母子の栄養・子育て環境の改善活動として、学生と共に地域における母親の栄養チャージカフェの立ち上げと実施を行ったり、産学連携による商品開発や復興支援活動、イベントや店舗の共同企画を毎年行なうなどしています。また、助産師さんとタッグを組んで、エビジェネ Base(母子の栄養改善活動)も行なっています。健康的な食生活の推進と持続可能な農業のために、NPO法人青果物健康推進協会の理事として農水省等の受託事業による青果物の摂取推進活動で動画を撮ったり、フルーツマエストロ協会の常務理事として果樹産業の活性化、若者への果物の正しい理解の普及、エシカルフルーツの利用事業(規格外果物の有効活用)などを行なっています。その他、防災士、JDA-DATとして、災害時の栄養対策や商品開発を行なっていて、NHKさんとコラボの企画も進めています。指宿鯉節アンバサダーとしては、日本の食文化の継承・普及、出汁の官能評価・成分分析等の研究を進めているところです。妊娠期の栄養環境(特に葉酸)が子どもに及ぼす影響や母子の栄養環境や災害時栄養の研究については、ご興味ある方、ぜひ一緒にやっていただけたら嬉しいです。宜しく願いいたします。商品開発やイベントなども新しいこと、楽しいことも是非一緒にさせてください!

【若手の会に入ってからよかったこと】

若手の会に入ったのは修士2年の時のサマーセミナーに出たのがきっかけです。気づいたら世話人になって15年くらい経ちます。大学院時代も、就職してからも、周囲にあまり先輩や後輩がいなくて情報交換をすることもできる環境になかったのが、若手の会でできる仲間の存在はとて大きかったです。いつもサマーセミナーや総会で集まるメンバーや世話人同士の交流が楽しみでした。自分が主催でサマーセミナーをやるときも、慣れなくて準備などに苦戦した反面、沢山の経験と学びができてとても良い思い出になりました。多くの素敵な出会いの数々に、感謝でいっぱいです。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

最近フルーツの普及活動をする中で、フルーツマエストロ講座の学習に組み込まれているフルーツカッティングをするのが楽しくて、飾り切りや、華やかな盛り付けにハマっています。また、生産者さんが同じ気持ちを持って育てて下さったのにも関わらず、廃棄される規格外のフルーツ(エシカルフルーツ)の問題解決(使って下さる企業と生産者を結ぶ)活動にもハマっています。エシカルフルーツから、新しいメニューや商品が生まれるのが嬉しくなります。

【氏名】 鈴木 拓史 (事務局長)

【所属】 同志社女子大学 生活科学部 食物栄養科学科 基礎栄養学研究室

【略歴】

2003年3月 静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養学科 卒業
2006年3月 静岡県立大学大学院 生活健康科学研究科 博士前期課程 修了
2009年3月 静岡県立大学大学院 生活健康科学研究科 博士後期課程 修了
2009年3月 日本学術振興会 特別研究員
2010年3月 ニュージャージー医科歯科大学 ポスドク
2010年12月 山形大学 地域教育文化学部 食環境デザインコース 助教
2019年4月 山形大学 農学部 応用生命科学コース 准教授
2020年4月 同志社女子大学 生活科学部 食物栄養科学科 准教授

【所属学会】 日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、アメリカ生理学会 など

【研究・仕事内容】

2010年に研究者として独り立ちしてから、ずっと、「小腸生理機能」に関する研究を進めています。栄養素や食品成分の生理作用を探求するためには、身体の何よりも先に接触する消化管への影響を知る必要があります。とくに、小腸の生理機能は多岐に渡り、栄養素の消化・吸収だけを担っているわけではありません。小腸組織は研究対象としても取り扱いが難しい組織ですが、その分、解明されていないことも数多く存在します。近年、小腸生理機能にフォーカスを当てた研究が世界中で活発に報告されるようになりました。消化管オルガノイド研究が起爆剤でした。大変うれしいことです。現在は、「小腸機能の維持・回復メカニズム」に関する研究を進めています。健全な小腸機能が、我々の健康の根底を支えていることを世の中に発信できるような研究活動に取り組みたいと考えています。

【若手の会に入ってよかったこと】

同じ方向を向いている方々との繋がりができたことでしょうか。一期一会を活かすのは自分次第ということですが、若手の会での出会いは多くの繋がりができます。また、多くの同志の存在は、様々な困難を乗り越える助けになります。やはり、人間一人では何もできません。気軽に相談できる間柄（遠からず近からずの関係）は、大変有意義であり、ある意味唯一無二の場所が若手の会にはあるような気がします。

【現在ハマっていること】

子どもと一緒にポケモン（switch、ポケカ）で遊ぶこと。ポケモンSVは、英語と日本語では登場人物の名前が違うのです……。あそこの場面の誰々と話した？という会話が成り立たないのが悩みです……。ポケカは全然勝てません……。デッキ作りが下手なのだと思います。

【その他】 そろそろ世話人会からは引退することになりますが、次世代の若手の方々には、これまでの会の歴史に敬意を払いつつも、枠に囚われないさまざまな取り組みに挑戦してほしいと思います。

【氏名】 鈴木 司 (総務)

【所属】 東京農業大学 応用生物科学部 農芸化学科 栄養生化学研究室

【略歴】

2003年3月 東京農業大学 応用生物科学部 生物応用化学科 卒業

2005年3月 東京農業大学大学院 農学研究科 農芸化学専攻 博士前期課程 修了

2008年3月 東京農業大学大学院 農学研究科 農芸化学専攻 博士後期課程 修了

2008年6月 University of Michigan Life Sciences Institutes 博士研究員 (2013年3月まで)

2013年4月 東京農業大学 応用生物科学部 生物応用化学科 助教

2022年4月 東京農業大学 応用生物科学部 農芸化学科 准教授 (現在に至る)

【所属学会】 日本栄養・食糧学会、日本農芸化学会、日本食生活学会など

【研究・仕事内容】

主に、栄養や細胞内エネルギーなどに関連するシグナル伝達経路の研究をしています。具体的には、細胞内のエネルギーセンサーとして働くタンパク質リン酸化酵素 AMPK の制御経路の解析や、細胞の成長において重要な働きを果たす mTORC1 に関する基礎研究を行っています。

また、AMPK の活性化剤は抗肥満・抗糖尿病作用を示すことから、農産物の未利用部位などから AMPK 活性化能を持つ成分の探索なども行っています。

【若手の会に入ってよかったこと】

学生も含め様々なバックグラウンドをもつ会員の方々と、寝食を共にして研究やそれ以外のことなどについて話し合うことができるのは非常に貴重な機会です。また、若手の会を通して多くの知り合いができたことも、とても嬉しく思います。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

ポスドク時代にアメリカにいたことから、ロングドライブをして国立公園などによく行っていました。目的地よりも、目的地に向かって延々と車を運転をすることが好きでした。今では、なかなかロングドライブができないので、ディスカバリーチャンネルの名車再生クラシックカー・ディーラーズをよく見えています。

【氏名】 松本 雄宇 (総務)

【所属】 駒沢女子大学 人間健康学部 健康栄養学科

【略歴】

2010年3月 関東学院大学人間環境学部健康栄養学科 卒業
2012年3月 東京農業大学大学院農学研究科農芸化学専攻 博士前期課程 修了
2012年4月 パレクセル・インターナショナル株式会社 臨床開発職
2013年12月 独立行政法人国立健康・栄養研究所 技術補助員
2017年4月 東京農業大学応用生物科学部生物応用化学科 助手
2018年4月 関東学院大学総合研究推進機構 助教
2019年7月 東京農業大学応用生物科学部農芸化学科 嘱託助教
2021年4月 駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科 助教
2022年4月 駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科 講師

【所属学会】 日本栄養・食糧学会、日本食生活学会、日本食品衛生学会、日本食品科学工学会、日本農芸化学会

【研究・仕事内容】

食品機能研究を行ってきましたが、現所属となってからは主に食品安全・衛生に関する実態調査を行っています。

【若手の会に入ってよかったこと】

様々な経験・経歴を持った人と知り合うことができることです。他大学の学生や教員と接することで、自分では考えもしなかった世界を知ることができました。若手の会に参加していなければ、おそらく大学教員として働いていなかったと思います。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

最近は子供に絵本を読んであげることハマっています。

【氏名】 串田 修 (会報)

【所属】 静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養生命科学科 公衆栄養学研究室

【略歴】

2009年3月 東京農業大学 応用生物科学部 栄養生命科学科 卒業

2011年3月 新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健学専攻 修士課程 修了

2011年4月 新潟医療福祉大学 健康科学部 健康栄養学科 助手

2014年4月 新潟医療福祉大学 健康科学部 健康栄養学科 助教

2016年4月 畿央大学 健康科学部 健康栄養学科 講師

2017年3月 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 後期博士課程 修了

2019年4月 静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養生命科学科 講師

【所属学会】 日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本健康教育学会、日本公衆衛生学会、日本フードシステム学会

【研究・仕事内容】

研究では、人々の食物摂取行動に関連する心理的要因や環境的要因を探索したり、その要因へ介入したりしています。仕事では、公衆栄養学の教育をしたり、自治体栄養士の皆さんと一緒に栄養政策を実施したりしています。

【若手の会に入ってよかったこと】

研究交流として学会の年次集会に参加するだけだと、どうしても同じ分野の人たちとつながりがちです。しかし、若手の会は、基礎から実践まで栄養学を志向する幅広い人たちが集まっています。栄養学の中でも異なる視点の方々がふだんどんなことをしているのか、どんなことを考えているのか、共有できる機会は良くなって思います。

【学生時代にハマっていたこと】

大学院生で新潟にいた頃は、研究に疲れたら近所の温泉で日帰り入浴したり（1回/2wくらい）、近場の低山でハイキングしたり（1回/3wくらい）していました。学生のときは自身で時間の融通を利かせやすいと思いますので、好きなだけ研究に没頭し、好きなタイミングに消極的・積極的休養を満喫されることをオススメします！

【PR】 実践分野の皆さんもぜひご参加下さい！！

【氏名】 大南 博和 (会報)

【所属】 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 臨床食管理学分野

【略歴】

2009年3月 徳島大学医学部栄養学科 卒業

2011年3月 徳島大学大学院栄養生命科学教育部 人間栄養科学専攻 博士前期課程 修了

2014年3月 徳島大学大学院栄養生命科学教育部 人間栄養科学専攻 博士後期課程 修了

2014年4月 関西医科大学附属枚方病院 健康科学センター 運動指導士

2017年4月 神戸学院大学 栄養学部 助教

2019年2月 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 助教 現在に至る

【所属学会】 日本肥満学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本心不全学会

【研究・仕事内容】

大学卒業後は健康運動指導士の資格を使って病院で運動療法に携わってました。現在は大学教員をしつつ、心不全や肥満外科（スリーブ胃切除術）のモデルマウスを用いて、病態の解明や栄養介入の効果に関する研究をしています。こういうモデルを用いた基礎研究に興味がある方はご連絡ください。(ohminami@tokushima-u.ac.jp)

【若手の会に入ってよかったこと】

やはり知り合いや仲間が自然と増えていくことじゃないでしょうか。みなさんフレンドリーです。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

学生時代はよくマラソン大会（～ハーフ）に出てました。今も週1で走ってます（時間がとれないときは坂道走るのがおすすめです）。あとはDIYが楽しいですね。

【氏名】 矢島 克彦 (会報)

【所属】 城西大学 薬学部 薬科学科 栄養生理学研究室

【略歴】

- 2010年3月 東京聖栄大学健康栄養学部管理栄養学科 卒業 (管理栄養士 取得)
- 2012年3月 筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻 修了 (修士 (体育学))
- 2012年4月 東京聖栄大学健康栄養学部管理栄養学科 助手
- 2015年4月 東京聖栄大学健康栄養学部管理栄養学科 助教
- 2019年1月 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻 修了 (博士 (スポーツ医学))
- 2019年4月 城西大学薬学部薬科学科 栄養生理学研究室 助教 (現在まで)

【所属学会】

日本栄養・食糧学会、日本脂質栄養学会、日本肥満学会、日本睡眠学会、日本時間栄養学会

【研究・仕事内容】

ヒトを対象としたエネルギー代謝 (脂質代謝) が専門です。次の3つの柱で研究を進めております。

- ① 「太りにくい食品」の研究・開発
- ② 「太りにくい身体をつくる食品」の研究・開発
- ③ 「太りやすいヒト」の早期発見・早期改善手法の開発

私たちが確立したヒトの脂質代謝能評価法は、精度もインパクトも世界一です。他機関との共同研究も精力的に行なっております。ぜひ一緒に研究しましょう!!

【若手の会に入ってよかったこと】

他分野の方のお話や研究内容を知ることができ、とても勉強になっています。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

今更ですが「進撃の巨人」にハマっています。設定やストーリーが難解なため、何度も読み直して理解できるよう努めています。詳しい方いらっしゃいましたらディスカッションさせてください。

【氏名】 中谷 祥恵 (会報)

【所属】 城西大学 薬学部 薬科学科 機能性食品科学研究室

【略歴】

2002年3月 東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科 卒業

2007年3月 城西大学薬学部薬学研究科薬学専攻 修了(博士(薬学))

2007年4月 城西大学薬学部薬科学科 助手

2013年4月 城西大学薬学部薬科学科 助教

【所属学会】

日本栄養・食糧学会、日本薬学会、日本分子生物学会、日本キチン・キトサン学会、ファンクショナルフード学会

【研究・仕事内容】

骨髄中の間葉系幹細胞および造血幹細胞の老化とその予防について研究しています。骨髄組織は老化に伴って黄色くなってくることが知られています。これは、造血機能が低下して、脂肪様組織が増えることが原因だと考えられています。また、老化にともなって骨密度が低下することはよく知られていますが、脂肪細胞と骨を作る骨芽細胞は共に間葉系幹細胞から分化します。つまり、中年になると脂肪がつきやすく、骨密度が下がりやすい状態になるのは骨髄中の間葉系幹細胞および造血幹細胞の機能低下が原因である可能性があると考えています。これらの幹細胞の機能低下を食品成分で予防できたらいいなと考えて研究を進めています。

【若手の会に入ってよかったこと】

普段学会に参加すると、どうしても自分の専門分野のセッションばかりに参加してしまいましたが、栄養学若手の研究者の集いサマーセミナーに参加することで、栄養に関する研究でも色々な分野や視点があることに気づけました。育児と研究を両立するママ研究者に出会えたことも大きな財産です。

【現在ハマっていること】

子供が歴史にはまったことをきっかけに、城跡めぐりや古戦場めぐりの楽しみ方を覚えました。

【氏名】 石井 愛子 (広報)

【所属】 西南女学院大学 保健福祉学部 栄養学科

【略歴】

2006年3月 西南女学院大学 保健福祉学部 栄養学科 卒業

2008年3月 山口大学大学院 医学系研究科 博士前期課程応用分子生命科学系専攻 修了

2012年3月 山口大学大学院 医学系研究科 博士後期課程情報解析医学系専攻(分子薬理学) 修了

2012年4月 ぐらしき作陽大学 食文化学部 栄養学科 助手

2015年4月 西南女学院大学 保健福祉学部 栄養学科 助手

【所属学会】 日本薬理学会、山口医学会、栄養学若手研究者の集い、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本災害食学会

【研究・仕事内容】

腸管上皮細胞層のバリア制御について研究を進めています。

【若手の会に入ってよかったこと】

サマーセミナーの参加がきっかけで若手の会に入りました。

私はあまり学会等に参加していなかったため、他大学の方や他業種の方と知り合うことがほとんどなかったのですが、若手の会に入ってたくさんの方々に出会うことができ、若手の会に入ってよかったなと感じております。いつも良い刺激を受けたり、相談に乗っていただいたり、大変感謝しております。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

SUPER BEAVER にハマっています！

【氏名】 大塚 愛理 (広報)

【所属】 近畿大学 理工学部 生命科学科 行動遺伝学研究室

【略歴】

2013年3月 徳島大学 医学部 栄養学科 卒業

2015年3月 徳島大学大学院 栄養生命科学教育部 人間栄養科学専攻 博士前期課程 修了

2019年3月 徳島大学大学院 医科学教育部 医学専攻 博士課程 修了

2019年4月 近畿大学 理工学部 助教

【所属学会】 栄養食糧学会、神経科学学会、生理学会、動物学会

【研究・仕事内容】

社会性動物が社会を営む上で曝露する心理社会的ストレスは、うつ病などの精神疾患の一因になると考えられています。私は、心理社会的ストレスが引き起こす生体内の変化に着目し、食品成分によるストレス状態の緩和を目指して研究しています。心理社会的ストレスの代表的な動物モデルが「社会敗北性ストレス」と呼ばれるモデルです。この動物モデルを使用して、行動実験や、脳内モノアミンの解析、代謝関連遺伝子の発現解析などを行っています。

【若手の会に入ってよかったこと】

研究に関しても、進路に関しても、いろんな方面からの柔軟な意見をもらえた（もらえる）こと！

学生時代はここでいっぱい友達をつくりました！！！！

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

キャラもののガチャガチャとか食玩とか集めるのが好きです。あとクレーンゲーム。

【その他】

本年度のサマーで皆さんをお待ちしております！！！！！！

【氏名】 藤井 駿吾 (広報)

【所属】 北海道文教大学 人間科学部 健康栄養学科

【略歴】

2010年3月 関東学院大学 人間環境学部 健康栄養学科 卒業

2012年9月 東京農業大学大学院 農学研究科 食品栄養学専攻 博士前期課程 修了

2016年9月 東京農業大学大学院 農学研究科 食品栄養学専攻 博士後期課程 修了

2016年10月 東京農業大学大学院 農学研究科 博士研究員

2017年4月 北海道文教大学 人間科学部 講師

【所属学会】 日本フードファクター学会

【研究・仕事内容】

食品の機能性についての研究を行っています。最近は、大学の包括連携協定先をはじめとする、様々な企業様とともに、食品開発や映画製作など、様々なイベントや取り組みも行っていきます。

【若手の会に入ってよかったこと】

色々なジャンルの方々と知り合えたことです。1つのことを聞くだけで、様々な視点からの意見がいただける環境は、とても価値のあるものだと思います。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

現在、これまでに経験したことのない仕事をする機会が増えたので、さまざまなジャンルの勉強をしています。自分の中でも視野の広がりや、分野のつながりに気づくという楽しみを見つけました。

【氏名】 吉岡 泰淳 (広報)

【所属】 静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養生命科学科 生化学研究室

【略歴】

2009年3月 東京農業大学 応用生物化学部 栄養科学科 卒業
2011年3月 東京農業大学大学院 農学研究科 食品栄養学専攻 博士前期課程 修了
2014年3月 東京農業大学大学院 農学研究科 食品栄養学専攻 博士後期課程 修了
2014年4月 神戸大学 自然科学系先端融合研究環 重点研究部 ポスドク
2016年4月 神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 ポスドク
2018年4月 甲南女子大学 医療栄養学部 医療栄養学科 助教
2021年4月 静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養生命科学科 助教

【所属学会】 日本栄養・食糧学会、日本農芸化学会、日本フードファクター学会、日本酸化ストレス学会、日本ビタミン学会

【研究・仕事内容】

骨格筋に着目し、メタボリックシンドローム予防、ロコモティブシンドローム予防、フレイル予防など、健康長寿をめざした研究をしています。最近では、異所性脂肪の機能性について解析しています。共同研究は積極的に行わせていただきますので、お声掛けください。

【若手の会に入ってよかったこと】

同世代、先輩、後輩、とにかく知り合いが増えます。それは食品学・栄養学に関連する方だけでなく、講演会にお招きした先生や栄養学に興味のある他分野の先生など、もちろん学生も含まれます。研究内容だったり、自分の将来のことだったり、様々なことを相談できる場がこの若手の会にはあります。

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

今も昔も、正義のヒーローよりも悪役が好き。プロレスはヒール派。現在は、現代人の敵である脂肪の良いところを探索中。研究にも通じていますが、脂肪は水に浮く以外にもいいところがあるはず。

【その他】

所属研究室 HP : <https://dfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/labs/biochem/>

【氏名】 青木 海 (広報)

【所属】 筑波大学 医学医療系 臨床検査/スポーツ医学研究室

【略歴】

2016年3月 山形大学 地域教育文化学部 食環境デザインコース 卒業

2018年3月 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育学専攻 修士課程 修了

2018年4月 株式会社ラストウェルネス 栄養士・トレーナー

2021年3月 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 スポーツ医学専攻 博士課程 修了

2021年4月 筑波大学 医学医療系 研究員

2023年4月 東京医科大学 医学部 消化器外科 研究員

【所属学会】 日本栄養・食糧学会、日本体力医学会

【研究・仕事内容および共同研究可能な内容】

今は生理活性物質レナラーゼの機能解析を中心に進めていますが、アスリートの健康・パフォーマンス向上に関する研究も並行して行っています。運動関連の共同研究がありましたらぜひ！

【若手の会に入ってよかったこと】

栄養学関連の研究者の方々と関わりを持つことができたこと。サマーセミナーの講演の後の夜ご飯の時間は先輩も同世代も後輩も関係なく、いろんな話ができ楽しいなと思います！

【学生時代にハマっていたこと or 現在ハマっていること】

博士課程を筋トレで乗り切れたので、ずっと筋トレにハマっています！

栄養学若手研究者の集い 会則

1. 本会は「栄養学若手研究者の集い」と称し、栄養学を志向しその研究あるいは実際に従事する者により構成される（年齢は問わない）。
2. 本会は会員が相互の立場を理解し、栄養学並びに各自の研究（基礎栄養学研究ならびに実践栄養学研究）の発展に資することを目的とする。特に、会員間の親睦に重きを置き、基礎栄養学研究者と実践栄養学研究者の連係・親睦を図ることによって栄養学の幅広い分野の発展に資することを目的とする。
3. 本会は前条の目的達成のため「総会」および「研究会」を開催することとする。
 - (1)「総会」は年1回を原則として、日本栄養・食糧学会開催期間中、同開催地において行うものとする。
 - (2)「研究会」は、夏期研究会（通称：サマーセミナー）を年1回、セミナー（通称：例会）を必要に応じ適宜開催することとする。
4. 本会に世話人会をおく。世話人は本会の運営にあたる。
 - (1)世話人は会員の互選により各地区より各若干名選出することとする。
原則的に、世話人の年齢は45歳以下とする。
 - (2)世話人代表は本会を代表し、世話人会の互選により世話人の中から1名選出する。
世話人代表を補佐する副代表は若干名、世話人会の互選により選出する。世話人代表が運営を遂行できない場合には副代表がこれを代行するものとする。また、他に組織役職として、事務局長、総務、書記、広報、会報、運営の各役職を置く。役職世話人は場合によって会則4-(1)にあてはまらない場合もある。
 - (3)世話人の任期は総会時より2年とし、再任を妨げない。
ただし、特別の理由がないかぎり世話人代表の任期は最大2期4年とする。
5. 本会の事務局は事務局長のもとに置くものとする。
6. 本会の会員は登録制とする。新規入会の場合は年度会費を添えて申し込むものとする。会員として登録されている者は当該年度会費の支払いをもって毎年登録を更新する。年度会費は年度内に本会事務局に支払うこととする。
7. 年会費は一般2,000円、学生1,000円とする。

8. 登録された会員が2年続けて会費を滞納した場合には登録を抹消する。なお、再入会は妨げない。
9. 本会の運営は年度会費およびセミナー参加料その他をもって充当する。
10. 本会の会計年度は毎年4月に始まり3月に終わるものとする。予算ならびに決算については総会の承認を必要とする。ただし決算については会員より選ばれた会計監事の監査を受けるものとする。

会付則事項

1. 本会則の改訂は総会において出席者の2/3以上の賛成を得て行う。
2. 本会則は昭和49年5月24日より施行する。
3. 昭和56年5月28日一部改正。
4. 平成16年7月1日一部改正。
5. 平成18年5月20日一部改正。
6. 平成19年7月1日一部改正。
7. 平成25年5月25日一部改正。
8. 令和2年4月1日一部改正。

(別途)

1. 事務局は事務局長の勤務先に置くものとし、令和2年4月1日より下記に置く。
事務局住所：〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602
同志社女子大学 生活科学部 食物栄養科学科
栄養学若手研究者の集い 事務局長：鈴木拓史
TEL 075-251-4164
2. 夏期研究会担当は、開催年度の1年前の総会において決定するものとする。

(令和2年4月1日現在)

令和4年度総会・講演会 報告

令和4年度総会・講演会は、第76回日本栄養・食糧学会大会（神戸・武庫川女子大学）期間中の令和4年6月11日（土）18:00～19:00に執り行われました。

1. 総会

1) 令和3年度事業報告・会計報告

令和3年度事業報告（総会の開催、第54回サマーセミナーの開催、第56・57号会報の発行について）・会計報告がなされ、了承された。

3) 第54回サマーセミナー開催・収支報告

令和3年9月11日（土）にオンライン（zoom）で開催された、第54回サマーセミナーの報告があった。

3) 令和3・4年度世話人会組織について

令和3・4年度世話人会組織の報告があった。

5) 令和4年度事業計画・予算案

令和4年度事業計画（令和4年度総会・講演会の開催準備、第55回サマーセミナーの開催準備、第58号会報の発行準備）・予算案が承認された。

6) 第55回サマーセミナー案内

令和4年9月3日（土）に徳島シビックセンター（zoom併用）にて開催される、第55回サマーセミナーの案内が担当の増田真志（徳島大学）からなされた。

2. 講演

演題：「腎」を守る機能性食品成分の創出を目指して

演者：小林 謙一先生（ノートルダム清心女子大学 教授）

第 55 回サマーセミナー報告

日時：令和 4 年 9 月 3 日（土）14：00～18：30

場所：徳島市シビックセンター（ライブ配信とのハイブリッド開催）

代表：増田 真志（徳島大学）

プログラム：

講演 1 座長 大南 博和（世話人・徳島大学）

講師 前田 翼 先生（株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂）

「直営社員食堂の役割と取組み」

講演 2 座長 大塚 愛理（世話人・近畿大学）

講師 小川 眞太郎 先生（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所）

「精神疾患のバイオマーカーと治療法の研究～アミノ酸関連分子に着目して～」

講演 3 座長 増田 真志（世話人・徳島大学）

講師 長谷川 陽子 先生（東京大学医学部附属病院 病態栄養治療センター）

「日米の臨床経験を通して考える管理栄養士の教育と役割」

日米栄養士のコミュニティ紹介および学生発表

司会 鈴木 拓史（世話人・同志社女子大学）、君羅 好史（世話人・城西大学）

1. 宮崎 拓郎 さん（株式会社グッテ）※オンライン

「アメリカと日本で活躍する登録栄養士・管理栄養士研究者がともに学ぶ研究会の取組み」

2. 横溝永矢さん（城西大学）※オンライン

「Vanilla における Vanillin 生合成経路の解明」

3. 奥田 明日香 さん（十文字学園女子大学大学院）※オンライン

「現在とこれから」

4. 足立 雄一郎 さん（徳島大学）※オンライン

「私の研究興味の変遷～阿波踊り、研究室配属、そしてポストンへ」

5. 志賀 由望 さん、澤田 千晶 さん（同志社女子大学）

「はじめての卒業研究」

6. 西野 菜月 さん、瀧 裕子 さん（同志社女子大学）

「先生のトリセツ～研究内容を添えて～」

7. 庄野 陸 さん（徳島大学）

「私の考える栄養の可能性」

参加者：54 名（一般 27 名、学生 27 名）



栄養学若手研究者の集い 第55回 サマーセミナーのお知らせ

テーマ 『未来に繋ぐ栄養学！』

日時 2022年 9月3日(土) 14:00~18:30(予定)

場所 徳島市シビックセンター&オンライン(Zoom)

● セミナー講師

「直営社員食堂の役割と取り組み」

株式会社大塚製薬工場 社員食堂 管理栄養士 係長

前田 翼 先生

「精神疾患のバイオマーカーと治療法の研究～アミノ酸関連分子に着目して～」

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 診断技術研究室長

小川 眞太郎 先生

「日米の臨床経験を通して考える管理栄養士の教育と役割」

東京大学医学部附属病院 病態栄養治療センター 主任管理栄養士

長谷川(上畑) 陽子 先生

● 学生発表

1人10分程度の学生発表を募集します。内容は、「現在の(将来やりたい)研究」、「栄養に関わるプチ自慢(体験談)」、「栄養に関わる社会をこう変えたい」、「自己紹介」など、何でも構いません。栄養学に関わる様々な分野の人で楽しく考え、交流の輪を広げましょう！優秀発表賞もあります。

● 参加費 会員：無料(但し、一般は年会費2,000円、学生は年会費1,000円)(事前申込制)

● 申込方法 氏名、所属先、住所、電話番号、メールアドレス、参加方法(現地・オンライン・検討中)、一般・学生の区別、学生発表希望の場合は発表タイトル、2022年度年会費の支払い状況を明記の上、2022年8月5日までに下記のメールアドレスにお申し込みください。

※定員(現地:100名、オンライン:100名)に達し次第締め切らせて頂きます。

● お問い合わせ・詳細

栄養学若手研究者の集い 第55回サマー代表

増田真志(徳島大学)

E-mail: eiyousummer2022@gmail.com

詳細は「栄養学若手研究者の集い」HPで随時更新します
<https://eiyouwakate.jimdofree.com/>



会場：徳島市元町1丁目24 (徳島駅前徒歩3分)



Otsuka

若手研究者の集い
サマーセミナー「未来に繋ぐ栄養学！」

直営の社員食堂の役割と取り組み




2022.09.03
(株)大塚製薬工場
総務部 社員食堂
管理栄養士 前田翼

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

Otsuka **食堂の健康に役立つメニュー考案**


ただ単に美味しいだけでなく、
健康に役立つかを考慮して、新メニューを考えています。

徳島産トマトと
すだち鶏のカレー




トッピングだけでなく、
ルーにも冷凍のトマトが
入っており、多くの野菜が摂れます。

揚げない磯辺唐揚げ
(おからパウダー)



おからを粉末にして乾燥させた
おからパウダーは、多くの食物繊維を
含んでいます。


ほうれん草の
自家製醤油糀和え




栄養価の高い醤油糀や塩糀も
社員食堂で自家製のものを作成し、
メニューに使用しています。

Otsuka-people creating new products for better health worldwide


Otsuka **環境に配慮した取り組み**




大豆ミートの
麻婆豆腐




高野豆腐の
照り焼き




高野豆腐の
唐揚げ




ゼロミートのカレー



カレー風味の野菜炒め
(ゼロミートソーセージ使用)



ゼロミートハムの
リゾット



食堂で使用しているゼロミート(大塚食品㈱)

肉類 VS 大豆類の
単位当たりのCO₂排出量

(CO₂/百万円)

肉類	大豆類
肉用牛: 14.24	豆類: 4.69
肉鶏: 9.56	
豚: 8.85	


豆類が最もCO₂排出量が少ない

誰もが実践できる環境への活動に、
社員食堂は取り組んでいます。

環境省(2022年6月現在)よりグラフ作成
https://ghg.sankyo.co.jp/ghg/cn/uc

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

精神疾患のバイオマーカーと治療法の研究 ～ アミノ酸関連分子に着目して ～



国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 行動医学研究部
診断技術研究室長
小川 眞太郎, Ph.D.
Eメール / sogawa@ncnp.go.jp

1

- ① 早稲田大学人間科学部人間基礎科学科 卒業
⇒ 臨床心理学 (心身医学ゼミ所属)
「もつと脳や身体に近い生物学的な研究がしたい…」
- ② 徳島大学大学院栄養生命科学教育部 修了
⇒ 人間栄養科学専攻 (医学部統合生理学講座にて研究)
⇒ マウスに特殊飼料を投与しての情動行動・睡眠・
体温日内変動の解析
⇒ 修士 (栄養学)
- ③ 2011.4 – 2014.12
国立精神・神経医療研究センター (NCNP) 疾病研究第三部 研究生
山梨大学大学院工学総合教育部 (人間環境工学専攻)
⇒ 2014年12月 学位取得 (医科学)
- ④ 2015.4 – 2020.3 NCNP 神経研究所 疾病研究第三部 流動研究員
- ⑤ 2020.4 – 現在 NCNP 精神保健研究所 行動医学研究部 診断技術研究室長



Interdisciplinary person ?



臨床栄養学教授 (当時)
武田 英二 先生
(徳島大学医学部栄養学科 棟礎)



「誰しもが幸せに生きられる世界を実現したい」

① 幸せと反対の苦しみ (心の病) をなくす ② 皆がより元気に生きられる方法を探す

誰しもが毎日実行可能な方法「栄養や食事」に注目

2

Take Home Messages

- ▶ 精神疾患の病態機序はいまだ不明、診断や症状の評価は病因論を排除した基準によって操作的に行なわれ、治療法や研究上の仮説も過去の偶然の発見に依拠
- ▶ RDoCなどの新しいフレームワークを用いたバイオマーカー探索により、精神疾患の再分類や、新たな治療法の樹立、新たな病態仮説にもとづく研究の発展が期待される
- ▶ これからのPh.Dが医学研究 (精神医学研究) に携わることの意味と可能性は非常に大きい

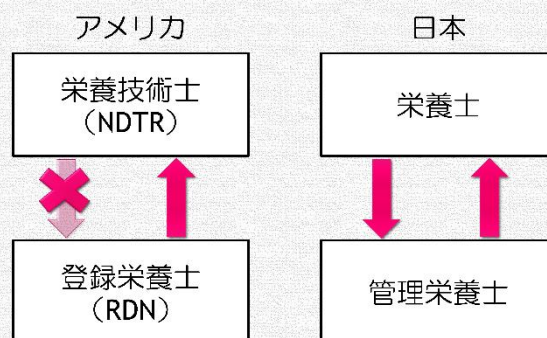
3

日米の臨床経験を通して考える 管理栄養士の教育と役割

東京大学医学部附属病院

管理栄養士・米国登録栄養士 長谷川 陽子

日米の栄養士資格の差



病院実習での日米での違い

- 給食管理：実技が少しあった程度。見学多め。
- 栄養相談：毎日患者さんやご家族に実際に栄養相談を実施し、カルテも書く（指導担当者の承認が必要）
加算もとる
- 栄養管理：患者面談や栄養アセスメント、栄養管理計画の立案、介入プランの実行など全て実際に行い、カルテも書く（承認必要）。
食事オーダー変更、経管栄養の投与内容や速度変更、経口栄養補助食品の追加変更など実際にやってOK。
実習後半に病棟担当も担う。



医療職としての管理栄養士の育成のために

質

実地研修や大学院教育の充実
継続教育の充実

専門性

上級資格の整備、インセンティブの獲得

発言力

研究推進
日本栄養士会、各種学会活動
草の根運動

栄養学若手研究者の集い 第55回サマーセミナーを終えて

第55回サマーセミナー代表

徳島大学大学院 医歯薬学研究部 臨床食管理学分野

増田 真志

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響により、2020年（中止）、2021年（オンライン開催）と2年間対面でのサマーセミナーが出来ていませんでした。そのため、今年是对面で開催したいという世話人の意見が多くありましたので、感染状況によってはオンライン開催に変更できるように対面とオンラインのハイブリッド開催にしました。しかし、私の不手際もありオンライン参加の皆様にはご不便おかけしましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。

今年のサマーセミナーのテーマは、「未来に繋ぐ栄養学!」でした。直近2年間は対面でのサマーセミナーができなかったことにより将来の栄養学を背負っていく若い人材の発掘が困難だったことから、それを解消したいという思いもあってこのテーマにしました。講演の講師には学生や大学院生にとって身近に感じられるように比較的若く、栄養学の可能性も知ってもらえるように幅広い分野からの選出となりました。また、国内の感染状況による急な変更など無理を聞いてくれる人で考えた結果、講師3人全員が徳島大学出身者という偏った選出になってしまったことはご容赦ください。講師1人目の前田さん（株式会社大塚製薬工場 社員食堂 管理栄養士）からは、大塚グループ発祥の地である徳島への貢献を目指して徳島の特産物や一般的には廃棄されてしまう部分をうまく利用したりなど様々な試みを紹介していただきました。2人目の小川さん（国立精神・神経医療研究センター 診断技術研究室長）からは、発展途上にある精神医学の歩みやバイオマーカー研究の流れなどを丁寧に紹介していただきました。そして、最後の長谷川さん（東京大学医学部附属病院 主任管理栄養士）からは、ご自身の実体験を交えて日米の臨床における管理栄養士、登録栄養士の役割や教育体制を分かりやすく紹介していただきました。今回の3講演はどれも興味深く、且つ刺激的なもので、講演を聴いた後の学生や大学院生の目がキラキラ輝いていたのがそれを象徴していました。（普段では見たことのないような目の輝きで、一教員として自分の未熟さに反省しております。）また、後半6題の学生発表の内容も多様で、現在行っている研究内容、徳島大学医科栄養学科の原点である栄養学連（阿波踊り）の紹介、指導教員のトリセツなど、会を盛り上げてくれました。

最後になりますが、会の運営や設営にご協力いただいた世話人や徳島大学の学生さん、そして参加者54人の皆様（現地参加37人、オンライン参加17人）のおかげで、今回のサマーセミナーのテーマである「未来に繋ぐ栄養学!」をしっかりと考えることができました。改めて皆様に感謝を申し上げます。ちなみに、今回のサマーセミナーの最後に「第56回は静岡開催かも?」と申しましたが、神戸開催になりそうです。神戸の地でまた皆様と栄養学について意見交換できることを楽しみにしております。

サマーセミナーの感想

中村学園大学

田中 生真

私は徳島県で開催された第 55 回サマーセミナーに参加して、多くの学びを得ることができました。また、研究者の道に進みたいと改めて実感することができました。

私は他大学の先輩からお誘いいただいて今回のサマーセミナーに参加しました。しかしその先輩は某ウイルスにより急遽 WEB 参加となったので、一人寂しく、心細く感じていました。また、他大学の学生や先生方とお会いし、お話する機会はほとんどないのでとても緊張しており、まだまだ知識が浅い私に参加する資格があるのかと不安を抱いていました。しかし、その不安も必要ありませんでした。いざ会場に到着すると、すぐに先生方が声をかけてくださり安心したとともに、温かい雰囲気を感じました。また、他大学の学生さんたちが輪に入れてくださり、安心して各先生方のご講演を聞かせていただくことができました。

先生方のご講演では栄養系のセミナーならではの話を基礎研究から実践研究まで聞かせていただきました。長谷川先生のご講演では、病院の管理栄養士の業務における世界と日本の差や、先生が何を大切にされているかなどをお話していただきました。長谷川先生のご講演の中で、アメリカの管理栄養士と比較して日本の管理栄養士は権限が少ないということが印象的でした。そして、管理栄養士の専門職としてのより高い地位の確立が必要であると感じました。そのためには質の高い管理栄養士の養成も大切ですが、栄養系の研究をより発展させることが重要だと考えます。食や栄養の重要性を、研究成果を通して広く認知させることが栄養管理の必要性の認識向上につながり、管理栄養士としての地位の確立に繋がると思いました。また、小川先生からは精神疾患と栄養についてのご講演をいただきました。精神疾患は詳しいメカニズムや確立したバイオマーカーが十分にわかっていないようで、今後の課題が多い分野であることがわかりました。また、対象者の栄養状況が精神疾患に関わっている可能性もあるということでした。精神疾患は現代社会に多い疾患であり、非常に重要な課題であると思います。栄養や食事の観点から精神疾患について考えていくことも重要であると感じました。

また、懇親会では、セミナーの時間だけでは話すことができなかつたお話もできて充実した時間になりました。他大学の学生がどのような生活をしているかなどが聞けて楽しかったです。また、先生方からもいろいろな意見や考えを聞くことができ、今後についてしっかりと考える機会となりました。

今回のサマーセミナーでは多くの方と直接お話することができ、とても考え方の広がる良い機会になりました。サマーセミナー後にも連絡を頂け、その場限りではない交流を持つことができました。来年以降も参加し、知見を増やせたらと考えています。今回のサマーセミナーを開催して下さりました世話人の先生方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

栄養学を通じた交流

同志社女子大学 管理栄養士専攻 基礎栄養学研究室

志賀 由望

今回はじめてサマーセミナーに参加させて頂いて、普段なかなか関わることでできな
い方々と関わることででき多くの刺激を受けることができました。

参加の動機は、所属している研究室の先生からの案内でした。大学のキャンパス内だけでは
得ることのできない考え方や価値観を知ることができ、自分の視野が広がり、とてもいい経
験になりました。

私は特に長谷川先生の講演が印象に残りました。この講演を聞いて、アメリカと日本の病
院における管理栄養士の立場の違いを学ぶことができ、改めて管理栄養士としてどう成長
していくべきか考えさせられました。具体的にアメリカの栄養アセスメントにおいては、栄
養士一人に対する患者の数が日本の2~3分の1程度であることや面談が必須になっている
というお話を聞き、アメリカでは日本より栄養という分野が重視されており、管理栄養士の
社会的立場も高いと感じました。また、アメリカでは5年毎に資格の更新が必要であるとい
うことを知り、日本でもこの制度を導入すれば栄養士という職がもっと社会から認めら
れるのではないかと思います。一方で、日本の病院における栄養管理の良さとして病院食
の質の高さがあげられ、味を追求し美味しい治療食を提供しようとする姿勢は日本の方が
優れていると感じました。日米両国さらには世界各国の良い面を集め、どういった栄養管理
が患者さんのQOLを高めることにつながるのか考えることが、今後日本の管理栄養士が臨
床においてより活躍することができる未来を作るために必要なことだと感じました。

また、今回学生発表の場を与えて頂いたことに感謝しています。初対面の大勢の前でプレ
ゼンをする機会が今までなかったのととても良い経験になりました。今回の反省を今後に
活かしていきたいと思います。

普段なかなか関わることでできない、栄養学の研究に携わっている尊敬できる方々と交流
できる機会は本当に貴重で、このサマーセミナーで少なからず成長できたと思います。私自
身サマーセミナーを通して、参加する前よりも研究意欲が湧き、大学院進学も考えさせられ
ました。

今回は、新型コロナウイルスの影響により対面とオンラインのハイブリッド型での開催で
したが、現地参加できて本当によかったです。例年の2泊3日のサマーセミナーが再開で
きるようになったら、さらに参加者同士の交流を深められ、栄養学について考える時間も増
えて、得る知識も多くなると思うので、今後も参加できる機会があればぜひ参加したいと思
いました。多くの人に参加すればするほど様々な価値観を知ることができ、栄養学の視野が
広がると思うので、ぜひ本会の多くの方にサマーセミナーに参加して頂き、交流を深められ
たらと思います。

「精神疾患のバイオマーカーと治療法の研究～アミノ酸関連分子に着目して～」

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部

小川眞太郎先生のご講演を拝聴して

徳島大学大学院 医科栄養学研究科 臨床食管理学分野

山本 菜摘

拙文ではございますが、サマーセミナーの所感を書き綴らせていただきます。

私が日頃ご指導いただいている増田真志先生が代表を務められるということもあり、今回初めて参加いたしました。徳島市の会場とWEBのハイブリッド形式での開催で対面を含む開催は3年ぶりとのことでしたが、県外からのご参加もありました。「未来に繋ぐ栄養学！」をテーマに講演や学生発表など充実した内容で、中休みには各所で交流が見られる和やかな雰囲気の中、多くの刺激と学びのある時間を過ごさせていただきました。

講演パートでは福利厚生施設、研究、臨床と異なった分野でご活躍されている3名の方が講師として招かれており、ご自身のご経験や各分野における栄養学のこれからの展望など貴重なお話をいただきました。本稿では講演2の小川眞太郎先生のご講演内容について、大変恐縮ではございますが少し触れさせていただきます。

精神疾患は世界でも有病率の高い疾患であり、日本においてもその割合は30人に1人と重大な疾患の一つです。しかし病態機序が明らかでないことから、現在その診断の多くは病因ではなく症状で行われています。そのため、たとえ診断名が同じであってもその発症機序は異なる可能性があり、これは精神疾患の治療が困難である一因といえます。小川先生はこの問題に対してバイオマーカーの探索というアプローチでご研究されており、今回は主にアミノ酸関連分子であるエタノールアミンの精神疾患バイオマーカーとしての有用性検討について精神医学やバイオマーカー研究の歴史も交えながらご講演くださいました。これまで疾患に対して栄養管理の観点から学ぶことが多かった私にとって、そのようなアプローチの方法があったのかと衝撃を受ける、まさに目から鱗なご研究内容でした。また私にはご講演を拝聴した日から忘れられないお言葉があります。それは先生がご講演中におっしゃった「誰しものが幸せに生きていける世界を実現したい」という研究に対する想いです。私はこのお言葉に非常に感銘を受け、それは進路に思い悩んでいた私の心に風穴が開いた思いでした。小川先生との出会いは私にとってかけがえのない財産になると感じております。

今回のサマーセミナーでは多くの学びを得ましたが、それだけでなく普段はなかなか得られない貴重なご縁をいただくことができました。皆様とご縁に感謝いたします。日頃ご指導いただく中で、増田先生はご縁や繋がりを大切にされていらっしゃるの印象的ですが、そんな先生らしい温かみの溢れるサマーセミナーでした。

末筆ではございますが、貴重なご講演をいただきました先生方ならびに代表を務められた増田先生、サマーセミナーに携わられた全ての関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

栄養学若手研究者の集い 第 55 回 サマーセミナー 「未来に繋ぐ栄養学！」感想文

徳島大学大学院 創成科学研究科 生物資源学専攻 食料生物科学コース
庄野 陸

今回初めて栄養学若手研究者の集いに参加させていただきました。これまでコロナの影響もあり、現地でのセミナー等に参加する機会がない中でこういったセミナーに参加、学生発表をさせて頂けたのでとても良い経験になりました。セミナーでは、大塚製薬工場社員食堂前田先生、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所行動医学研究部小川先生、東京大学医学部附属病院病態栄養治療センター長谷川先生、三名による講演が開かれました。その後、学生発表が行われ参加させていただきました。

前田先生の講演では、直営方式の社員食堂で行われている、栄養管理、栄養に関する社内講演等を通し、社員の健康にフォーカスし、活動されていることを深く知ることが出来ました。その中でも地産地消に注目し、徳島県内で生産された農作物を取り入れる際に、地域の農家さんに足を運び、農作物の相談などを行い素晴らしい行動力があると感じました。新しい製品を作製し、社員の方々に提案するための努力、工夫を教えて頂き非常に勉強になりました。私も研究活動のみならずアクティブに行動していきたいと感じました。

小川先生の講義では、世界規模で有病率の高い精神疾患のバイオマーカーについて詳細に説明していただき、精神疾患についての理解が進みました。現在、病態機構が不明である精神疾患に対して、様々な仮説からのアプローチを行い、バイオマーカーへと応用できる成分の検討を行う部分に衝撃を受けました。また、精神疾患を持つ患者の選別条件を見直すことが精神疾患のバイオマーカーの発見に必要なものであるといった、既成の枠にとらわれない考え方がとても参考になりました。実験への取り組み、考察を正確に繰り返すことでこういった力を身に付けて行きたいと感じました。

今回初めてサマーセミナーに参加、発表させていただきましたが、初めて現地で発表し、質問の返答を行うことで、私では思いつかない疑問点など、これからも研究を続ける際に必要な考え方などを学ぶことが出来ました。その他の学生発表を聞いていると、同世代の人が熱心に研究を行っていること、様々な見方で、研究課題にアプローチしていることが分かり、私自身の研究に足りていない部分、見習うべき部分などたくさん学ぶことが出来ました。学生の発表は、とても堂々と発表しており、自分の研究を日々頑張っているのだと感じました。また、セミナーの合間、セミナー後には、研究活動について、話し合うことができ、様々な悩みながらも楽しみ研究を行っていることが分かりました。そのことを通して、同世代の人が頑張っているのだから、私も日々の研究活動について考え直し、より一層頑張っていきたいと感じることが出来ました。参加させて頂き、誠にありがとうございました。

第 55 回サマーセミナーに参加して

東京農業大学 栄養生化学研究室
濱 美里

私にとって記念すべき初参戦の回となった、第 55 回目サマーセミナー。

学生による研究発表や、管理栄養士として最前線でご活躍されている先生方の講演など、得られたものは期待以上のものでした。中でも、国立精神・神経医療研究センターの小川先生による「精神疾患のバイオマーカーと治療法の研究」についての講演は、私にとって全くの異分野といっても過言ではなく、興味深いものでした。

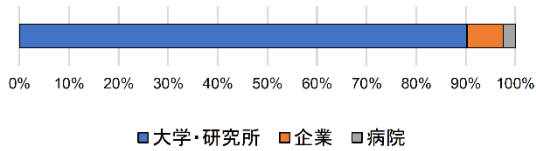
デジタル化が進み便利になる一方で、複雑化が加速する現代社会と比例するように増加する精神疾患患者。精神疾患の診断は、身体疾患のように検査データを元に直接診断する方法が確立されておらず「問診」が中心です。また、治療においては、精神科受診のハードルの高さや投薬中心になってしまう治療法など、この病の難しさを私自身感じていました。しかし、小川先生が研究されているこのバイオマーカーが精神疾患の診断法の一つとして確立された時、患者は正しい治療法を選択していく事が可能になり、完治が難しいと言われていた精神疾患の治療に大きく貢献するだろうと考えます。また、異常が可視化されることで正しく「病気」と認知されるようになり、治療のハードルを下げるばかりか、精神疾患に対する理解を深めるきっかけにもなり、これからの社会にとって非常に有用な研究であると感じました。また、日々の食事は、我々の身体を作るだけでなく、うつ病患者には一部の栄養素が不足しているという報告もあるように、精神面にも大きく影響します。小川先生の講演を通じて、精神疾患治療における「客観的な診断の重要性」と「栄養学的アプローチの必要性」を考えると同時に、我々が心身ともに健康で生きていくために、栄養学分野がもたらす大きな可能性も改めて感じました。

数十人の著者が連なる科学論文を目にする事も少なくなく、大きな個の力が集うことは新たな発見とその可能性を高める一つの要因になると考えます。この栄養学若手研究者の集いというのは臨床・基礎研究分野が一堂に会し、様々な考えや意見を交換する事ができる、まさに新たな発見を生み出す可能性を秘めた、非常に貴重な場であると強く感じます。私自身、今回のサマーセミナーを通して新たな視野を取り入れる事ができましたし、何より皆様とお会いし、色々なお話ができた事は、かけがえのない知の財産となりました。

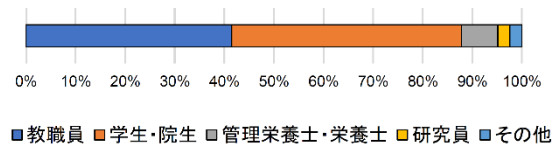
このような、貴重な機会を提供して下さった増田先生はじめ、世話人会の先生方並びに、お忙しい中運営にご尽力いただいた徳島大学の皆様はこの場をお借りして、改めて感謝申し上げます。とても楽しいサマーセミナーでした。ありがとうございました。

第55回サマーセミナー アンケート集計結果（回答者41名）

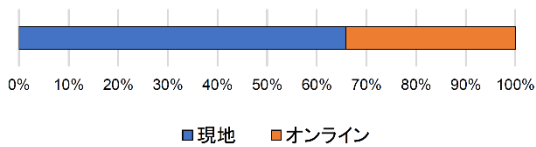
Q1. 所属は？



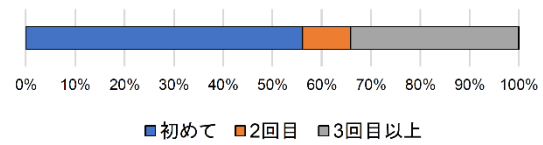
Q2. 職業は？



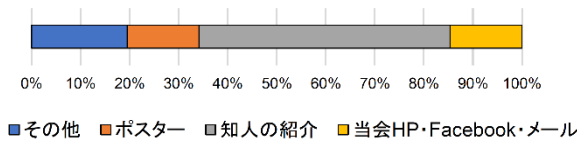
Q3. 今回のサマーセミナーへの参加方法は？



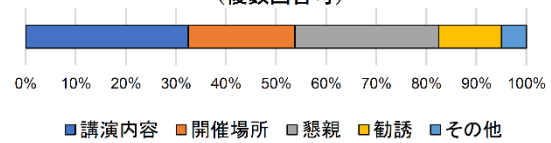
Q4. 今回のサマーセミナーへの参加は何回目ですか？



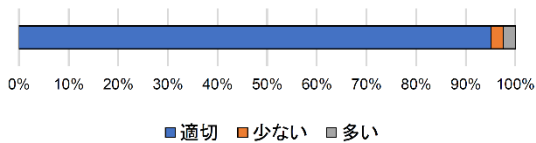
Q5. 今回のサマーセミナーは何で知りましたか？



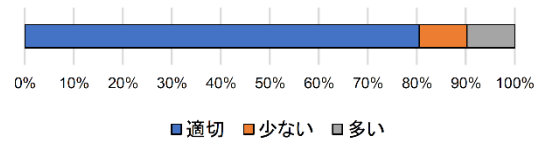
Q6. サマーセミナーへの参加の理由は何ですか？
(複数回答可)



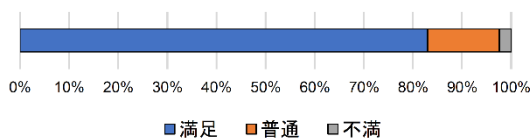
Q7. 今回のサマーセミナーの講演の量は？



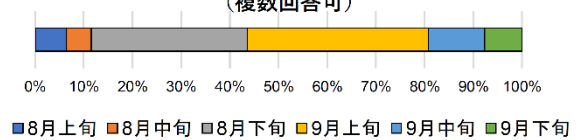
Q8. 今回のサマーセミナーの学生発表の量は？



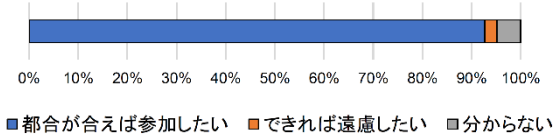
Q9. 今回のサマーセミナー全体としての満足度は？



Q10. 今後のサマーセミナーの開催希望時期は？
(複数回答可)



Q11. 今後も当会のサマーセミナーに参加したいですか？



Q.12 今回のサマーセミナーへの具体的な感想があればお聞かせください。

- 普段聞くことができない様々なお話が聞けてとてもよい刺激になりました。
- 懇親会に行かなかった人と、もう少し仲良くなれる機会（企画）があれば嬉しい。
- 専門としていない分野のお話なども聞く機会となり勉強になりました。
- 初めて参加させていただきましたが、アットホームな会で色々な人と交流させていただき、本当に有意義なセミナーになりました。
- 今回はオンラインでの参加でしたので、満足度を普通とさせていただきました。ご講演内容は、多岐にわたり、満足しております。若手や学生が、現場で交流を深め、刺激を得られる貴重な機会だったと感じております。サマーセミナーのお世話等、おつかれさまでございました。
- 海外の管理栄養士さんについての話は初めて聞いたのでとても刺激になりました。
- 学生さんがたくさん参加してくれてよかった。
- 初めての参加でしたので、学生発表などのボリュームに関しては分かりかねますが、共通のテーマを決めて、話されてもいいかと思いました。（もしくは、学生発表の内容はそれぞれ自由として、特別講演の内容は共通テーマを持たせるなど。）少し内容が散らばりすぎで、方向性が無いように感じました。
- 徳島大学の卒業生の活躍ぶりに感心しました。また、次世代の研究者の育成も重要だと思いました。あとは徳島を堪能しました。大変満足です。
- 初めて参加しましたが、とてもフレンドリーな会で参加しやすかったです。基礎研究ばかりがテーマであると勝手に勘違いしていました。フィールドの違う先生方のご講演をお聞きすることができ、とても刺激を受けました。学生さんなどの発表の場としても有意義だと思います。参加者の熱意や、若者のフレッシュさなどを感じることができ、とても嬉しく楽しい気分になりました。今回はやむを得ずオンラインでの参加でしたが、都合が合えば対面での参加・懇親会も参加したいと思います。もっと昔から参加しておけばよかったです。会を企画・運営してくださった先生方、どうもありがとうございました。
- ハイブリッド開催は難しいなと思いました。オンラインで会場の質疑の音が聞こえづらく、現地の雰囲気はわからないのは少し寂しいです。ただ、海外からの参加者もいるので、オンラインは使い方によっては有用であるとも感じました。
- オンライン参加者です。講演や学生発表が終わるごとに行う質疑応答の時に、質問者の声は何も聞こえなかったです。またオンラインと現地参加者の間で温度差があるなと思いました。（OS-1の配布など）
- 予定時間より時間が超過しているのにも関わらず、事前に配布された資料に記載されていない企画、休憩時間でない場での個人的な交流をしないでほしかった。特に後者はセミナー後に懇親会があったのだから、時間の制約のあるセミナーの場ではしないでほしかった。いずれの講演テーマが良かっただけに残念。
- ハイブリッド開催は今後、あまりやらないかもしれませんが、会場の様子がどのような感

じかが全くわからなかったため、その視点も zoom メンバーに追加して頂けるとありがたいなと思いました。

- また、発表の際の質問者様のお顔や声もよくわからなかったため、専門の席？もオンラインから見えるようにして頂けると、なおわかりやすいと思いました。
- オンラインからでも楽しく参加させて頂きました！
- 多岐にわたる分野の先生のお話が聞けて、大変充実した時間を過ごすことができました。
- また、懇親会でも同期や知り合いの先生と久しぶりに対面で話をする事ができて、非常によかったです。
- コロナの状況に限らず、今後も今回のように宿は各自確保が良いと思います。
- アットホームで素敵な会だなと思いました。この会なら若手は発表しやすそうだなと思いました。
- 栄養学研究者と実践者をつなぐ素晴らしい会に参加させていただき本当にありがとうございました。
- ハイブリッド開催も大変スムーズに進行していただき、運営の皆様に心から感謝申し上げます。
- 2019 年以來の現地開催でのサマーセミナーでとても有意義な時間を過ごすことができました。
- 講演内容も興味深く、フレッシュな学生さんたちの発表も良かったと思います。
- 大塚さんの Zoom スキルが素敵でした。
- 初めての参加でしたがとても有意義な時間を過ごすことができました。
- 徳島とても楽しかったです。
- 世話人の方々はじめ、運営に関わられた皆様に感謝申し上げます。
- 今回サマーセミナーに初めて参加したのですが、思っていたより柔らかい雰囲気であまり緊張せずに公演を聞くことができたと思う。食堂、病院で働いている人や県外、海外で研究をしている人などのお話を聞くことができてとても貴重な体験ができたと思う。また栄養学の魅力に改めて気づくことができた。次参加する機会があれば、もっと積極的に皆さんと交流してみたい。今回はこのような素敵な会を開催していただきありがとうございました。
- 講演が社員食堂給食管理、バイオマーカー探索研究、米国登録管理栄養士と幅広く、大変勉強になりました。
- 普段自分が所属しているところ以外の方とお話する機会がないので、今回現地参加でたくさんの素敵な出会いがあり参加してよかったです。
- ご講演、ご発表をしてくださった皆様はもちろん、代表を務めてくださった増田先生、また関係者の皆様に心より感謝申し上げます。
- 現地で参加したかったのですが、こちらの都合でオンラインで参加させていただきました。

- オンラインでも現地で参加しているようで楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。

Q.13 今後、サマーセミナーで聞きたい講演のテーマは？

- 栄養関連のベンチャー企業の話（フードテック）
- どの分野のお話もきいてみたいです。
- 現場の管理栄養士が困っていることなど、教科書からは分からないような体験を踏まえたご講演。海外での臨床栄養士の話。基礎研究のホットな話題。
- 素晴らしい、先輩方や先生方の現在のお仕事等についての話はとても刺激になりました。
- 栄養学研究に関する新しい職業について聞きたい。
- 栄養学研究を活かして、既存の枠組みにとらわれないような仕事をしている方がいれば、話を聞いてみたいです。
- 実際にやっている人の視点から最新の研究技術の紹介
- 「基礎研究ことはじめ」「臨床研究ことはじめ」的な内容
- 研究者として必要なこと、キャリアプラン、ワークライフバランスなど
- ビタミン・ミネラルの基礎研究
- 食物アレルギーに関するご研究をされている方の講演が聞けると嬉しいです。
- 疫学やスポーツ栄養などヒト研究のお話も聞いてみたいです。
- 異分野に進んだ栄養士さんの話とかも聞きたいです。
- 栄養関連の臨床研究(基礎の話題が日本だと多いので、臨床研究の現状に興味があります)
- DOHaD やスポーツ栄養についてお話を伺ってみたいです！
- スポーツ栄養学関連
- 研究室運営のコツ
- 基礎研究系
- DOHAD
- 母子栄養
- 子供の発達

Q.14 今後、サマーセミナーでやって欲しい企画は？

- グループワーク
- 学生さんの自己紹介を兼ねた企画は大変良かったと思います。
- 何かのテーマを置き、学生同士のパネルディスカッションなども良いかもしれません。
- 若い学生が、研究や興味を共有したりできるような企画をやってほしいです。
- アカデミック（大学教員）や独立した研究員を目指す学生もいるかと思っています。大学院生の頃に、他の大学の院生がどう感じ、何を悩んでいるか、また、お互いがそれを共有できる機会があったら励みになるかと思っています。また、大学教員が赤裸々に内情を話す機会が

あっても面白いかなと思います（話せる範囲ですが）。

- 次こそは朝まで意見交換会？でしょうか。体力に自信はありませんが。
- サマーセミナーに参加されている方の研究がもっと知れると嬉しいなと思います！
- 複数の専門家登壇によるトークセッションなど
- 学部生が大学院進学を考えるようになってくれる企画などあればいいなと思います。
- 大学ツアーに伺ってみたいです。
- 学生同士のざっくばらんな交流企画

栄養学若手研究者の集い



第 56 回

サマーセミナーのお知らせ

3年ぶり？の合宿形式！

開催時期：2023年9月9日(土)～10日(日)

開催場所：しあわせの村（兵庫県神戸市北区）

詳細はHPにて随時案内します。

○テーマ○

「エビデンスベースで食と健康の未来を考える」

食による健康志向が高まる中、多数の情報で溢れる現在、消費者は正しい選択をして食生活を実践できているのでしょうか？一方で生活習慣病やさまざまな疾病は増加の一途をたどっています。栄養学を専門とする私たちは、正しい情報を学び、発信していく役割を担っています。情報は日々変化し続けていますので、今一度、エビデンスベースで食と健康の未来を学び、考える機会になればと思っています。神戸の山奥、緑豊かなしあわせの村にて開催です！ぜひふるってご参加ください。



第56回サマーセミナー代表

神戸大学 山下陽子

近畿大学 大塚愛理

